

# 第25期 岡山県産業教育審議会

## 第2回会議 資料

1	産業教育実態調査まとめ	1
2	第1回専門委員会概要報告	8
3	参考資料	
	(1) 「将来のスペシャリスト育成」に関する提言	
	○ (国) 「スペシャリストへの道」 抜粋	
	職業教育の活性化方策に関する調査研究会議 (最終報告) (平成7年3月)	
	.....	11
	○ (国) 「今後の専門高校における教育の在り方等について」 抜粋	
	理科教育及び産業教育審議会 (答申) (平成10年7月)	
	.....	12
	(2) 「平成22年3月新規学校卒業者の就職内定状況 (1月末現在)」	
	.....	14

## 産業教育実態調査まとめ

### 1 調査目的

今後の産業教育に関する教育の内容や方法の改善等について審議するに当たり、本県産業教育の現状と課題について把握する参考資料とするため、事業所及び高等学校に対して実態調査を行うものである。

### 2 調査対象

#### (1) 事業所

県産業教育振興会会員事業所 200社にアンケート実施 → 回答：93社

内訳： 製造業(29), 卸・小売業(20), 建設業(11), 医療福祉(8), サービス業(6), 運輸業(3), 金融(3), 宿泊・飲食業(3), その他(10)

#### (2) 高等学校

県内全公私立高等学校 91校にアンケート実施 → 回答：91校

### 3 調査実施 平成22年1月に実施 ※ 調査項目(別紙)

### 4 調査結果 (○：事業所アンケート, ●：高等学校アンケート)

#### (1) 高校生の就職について

##### ①採用計画の動向

○過去4年間(H19～21年度)で高校生の採用があった事業所(H22年度は採用予定)

##### 49社

内訳： 製造業(23), 医療・福祉(6), 卸・小売(5), 運輸(3), その他(12)

○当該事業所の今後の採用計画

採用増,	現状維持,	採用減,	未定,	採用無し
2社	24社	3社	17社	3社

○高校生向けの求人内容(複数回答)

1)技術・現業,	2)事務,	3)営業,	4)販売,	5)サービス,	6)その他
35社	11社	10社	6社	3社	6社

●高校が求める求人内容(複数回答)

1)技術・現業,	2)販売,	3)事務,	4)営業,	5)サービス,	6)その他
92校	66校	54校	7校	48校	2校

##### ②高校生を採用する理由(上位項目)複数回答

1)若いうちから教育できる,	2)素直,	3)学校との繋がり,	4)真面目,	5)元気
26社	20社	16社	14社	14社

### ③高校生を採用しない理由（上位項目）複数回答

- 1) 忍耐力不足, 2) 知識・技術力不足, 3) コミュニケーション不足, 4) 規律・マナー不足  
8社 7社 5社 4社

### ④高校の進路指導の課題・企業からの要望等

<○事業所の自由記述> ・内定後から卒業までの間の指導について連携できないか, ・先生方と企業との交流が必要ではないか 等
<●高校の自由記述> ・専門を生かせる求人・女子の求人・生徒の希望する求人が少ない ・基礎学力の低下が課題 ・コミュニケーション能力向上のための指導が課題 等

## (2) 社会人前教育について

### ①高等学校段階で身に付けておくべき力（上位項目）複数回答

#### ○事業所

- 1) 礼儀挨拶, 2) 一般教養, 3) 協調性, 4) 責任感, 5) コミュニケーション能力  
63社 38社 37社 36社 28社

#### ●高校

- 1) コミュニケーション能力, 2) 礼儀挨拶, 3) 一般教養, 4) 資格取得, 5) 責任感  
83校 68校 63校 23校 19校

<○事業所の自由記述> ・面接の時は挨拶できるが入社するとできない ・チームで働く力が必須 ・叱られる体験や困難な体験をさせて耐性をつける教育が必要 ・常識力・一般教養（特に文章力, 読解力, 漢字）が必要 ・言葉づかい 等
---

### ②高等学校段階での専門知識・技能の習得について

<○事業所の自由記述> ・基礎的な学力を身に付けていればよい ・高度な知識・技能は入社後に教育するのでいい ・汎用性の高い基礎知識を身に付けて欲しい 等
<●高校の自由記述> ・それぞれの専門科の基礎・基本を身に付けさせたい ・高度な資格が必要だと思う ・基礎的な知識・技術を身に付けておけば, 社会の現場では自ら学んでいける 等



「産業教育実態調査」事業所用アンケート

NO. 1

会社名 [ ]  
回答者職名 [ ]  
氏名 [ ]  
連絡先電話番号 [ ]

以下の質問にお答えください。（選択肢がある場合は、該当のものに○を付けてください）

1 会社概要について

①業種

[ a) 農・林・漁業    b) 建設業    c) 製造業    d) 運輸業    e) 卸・小売業    f) 金融業  
g) 宿泊飲食業    h) 医療福祉    i) その他サービス業    j) その他 ( ) ]

②事業所規模

[ a) ~29人    b) 30~99人    c) 100~299人    d) 300~499人    e) 500~999人    f) 1,000人~ ]

2 新規高等学校卒業生の採用について

① 採用実績と定着状況

H19.3月卒業生    採用者数 (    ) 人    離職者数 (    ) 人  
H20.3月卒業生    採用者数 (    ) 人    離職者数 (    ) 人  
H21.3月卒業生    採用者数 (    ) 人    離職者数 (    ) 人  
H22.3月卒業予定者    内定者数 (    ) 人

② ①で、早期（3年以内）の離職者がいる場合の離職理由

③ 今後の高校生採用計画

[ a) 採用を増やしたい    b) 現状維持で採用する    c) 採用を減らしたい    d) 採用しない    e) 未定 ]

④ ③で、「a)採用を増やしたい」の場合、その要因【複数回答可】

[ a) 高校生の採用へ切替    b) 事業規模の拡大    c) その他 (    ) ]

⑤ 高校生の採用計画がある場合、その求人内容（職種）【複数回答可】

[ a) 技術職    b) 現業職    c) 事務職    d) 営業職    e) 販売職    f) サービス職  
g) その他 (    ) ]

⑥ 高校生の採用計画がある場合、高校生を採用する理由【3つまで複数回答可】

[ a) 若いうちから教育できる    b) 即戦力    c) 真面目    d) 素直    e) 元気    f) 体力  
g) 学校との繋がり    h) 給与面    i) その他 (    ) ]

⑦ ③で、「c)採用を減らしたい」または「d)採用しない」の場合、その要因【複数回答可】

[ a) 大学・大学院生の採用へ切替    b) 専門学校生等の採用へ切替    c) 人材派遣を増加  
d) 交替制勤務の人員確保    e) 臨時やパートを増加    f) 外国人を増加  
g) 中途採用を増加    h) 高齢者雇用を増加    i) アウトソーシング化  
j) 事業規模の縮小    k) その他 (    ) ]

⑧ ③で、「c)採用を減らしたい」または「d)採用しない」の場合、高校生を採用しない理由【3つまで複数回答可】

[ a) 知識・技術力不足    b) コミュニケーション不足    c) 忍耐力不足    d) 規律・マナー不足  
e) その他 (    ) ]

⑨ 高校の進路指導について、ご意見があれば

## 3 新入社員研修の主な内容【複数回答可】

- |                |           |          |                |         |         |
|----------------|-----------|----------|----------------|---------|---------|
| a) 会社概要        | b) 社会情勢   | c) 事務手続き | d) 福利厚生        | e) 専門知識 | f) 専門技術 |
| g) 社内見学        | h) 現場体験   | i) 資格取得  | j) プレゼンテーション能力 |         |         |
| k) コミュニケーション能力 | l) 規律・マナー | m) 健康・体力 |                |         |         |
| n) その他 (       |           |          |                |         | )       |

## 4 「社会人前教育」について

## ① 高校在学中に身に付けておくべき力（新入社員に求める力）【3つまで複数回答可】

- |                |            |         |          |                |        |
|----------------|------------|---------|----------|----------------|--------|
| a) 一般教養        | b) 専門知識・技能 | c) 資格取得 | d) 協調性   | e) 創造性         | f) 責任感 |
| g) 課題発見力       | h) 問題解決力   | i) 行動力  | j) 判断力   | k) プレゼンテーション能力 |        |
| l) コミュニケーション能力 | m) 礼儀・挨拶   | n) 道徳性  | o) 健康・体力 |                |        |
| p) その他 (       |            |         |          |                | )      |

## ② ①の中で、最も大切だと思われる力と、その理由

選択肢 ( ) 理由

## ③ 次のそれぞれについて、特に必要だと思われる具体的な内容

(①で選択していない場合もお答えください)

- |              |   |
|--------------|---|
| a) 一般教養 (    | ) |
| b) 専門知識・技能 ( | ) |
| c) 資格取得 (    | ) |

## 5 産学連携による人材育成

## ① 現在、高校に協力していること【複数回答可】

- |                   |             |         |          |
|-------------------|-------------|---------|----------|
| a) 職場見学（応募前見学を除く） | b) インターンシップ | c) 講師派遣 | d) 機材等提供 |
| e) していない          | f) その他 (    |         | )        |

## ② ①について、実施する上での課題

## ③ 今後、高校に協力できること【複数回答可】

- |                   |             |         |          |
|-------------------|-------------|---------|----------|
| a) 職場見学（応募前見学を除く） | b) インターンシップ | c) 講師派遣 | d) 機材等提供 |
| e) できない           | f) その他 (    |         | )        |

## ④ ③で、インターンシップの受入が可能な場合、お答えください。

## 1) 一度に受入可能な人数

- |       |        |        |         |         |
|-------|--------|--------|---------|---------|
| a) 1人 | b) ～3人 | c) ～5人 | d) ～10人 | e) それ以上 |
|-------|--------|--------|---------|---------|

## 2) 一度に受入可能な日数

- |       |        |         |         |         |         |         |
|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| a) 1日 | b) ～3日 | c) ～1週間 | d) ～2週間 | e) ～1ヵ月 | f) ～3ヵ月 | g) それ以上 |
|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|

## 3) 受入可能な時期【複数回答可】

- |        |       |       |       |       |          |        |        |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|--------|--------|
| a) 4月  | b) 5月 | c) 6月 | d) 7月 | e) 8月 | f) 9月    | g) 10月 | h) 11月 |
| i) 12月 | j) 1月 | k) 2月 | l) 3月 | m) 随時 | n) わからない |        |        |

## 4) 実施する上での課題

## 6 その他、高校や高校教育への要望等



3 産学連携による人材育成

① 現在, 行っていること【複数回答可】

- a) 職場見学 (応募前見学を除く)    b) インターンシップ    c) 講師派遣    d) 機材等提供  
 e) していない    f) その他 ( )

② ①について, 実施する上での課題

※欄が狭い場合は下に広げて御記入ください。

③ 今後, 特に力を入れたいことを一つ

- a) 職場見学 (応募前見学を除く)    b) インターンシップ    c) 講師派遣    d) 機材等提供  
 e) 特にない    f) その他 ( )

4 インターンシップについて

① 現在の状況 (大学科ごとの)

- 1) 該当学年 ( ) 年  
 2) 該当学年の人数 ( ) 人  
 3) 参加人数 ( ) 人  
 4) 参加日数 ( ) 日  
 5) 参加時期 ( 春期休業中    夏期休業中    冬期休業中    その他 ( ) )

② インターンシップを実施している場合の課題

※欄が狭い場合は下に広げて御記入ください。

③ インターンシップを実施していない, または参加者が少ない場合の理由【複数回答可】

- a) 教員が必要ないと思っている    b) 生徒の希望がない    c) 生徒が希望する事業所がない  
 d) 部活動を休めない    e) 交通の便が悪い    f) 事業所が受け入れてくれない  
 g) その他 ( )

④ 2週間以上のインターンシップの実施

- a) 可能    b) 不可能    c) 検討中    d) わからない

5 その他, 企業や教育委員会への要望等

※欄が狭い場合は下に広げて御記入ください。



## 第 1 回専門委員会概要 報告

平成 22 年 2 月 19 日(金)

13:30 ~ 16:30

西村ビル 2 F 会議室

### I 各学科の現状と課題

(農業)

- ・就職内定率 94 % (75 名 / 80 名)、縁故 11 名
- ・就職未決定者 12 名 (公務員 3、アルバイト 4、アパレル関係アルバイト 3、一家転住 2)

\*課題

- ①インターンシップ : 1 年全員、夏休み 2 日間、苦情 (挨拶、ルール)
- ②**基礎学力養成**
- ③面接指導 (担任 → 学年主任 → 進路課 → 教頭 → 校長)
- ④躰、マナー
- ⑤教員の授業の工夫不足 → **教員の指導力向上**

(農業)

- ・進学 (40 %) 就職 (60 %)
- ・就職内定率 95 % (一次内定率 60 %)
- ・求人数半減 → マッチングが困難、偏り
- ・企業も基準に満たない生徒は採用しない
- ・**基礎学力の養成**
- ・研究発表や現場での実践を重視・活用
- ・基本的なマナーの育成
- ・**教員の授業力の向上**
- ・インターンシップは希望者対象に実施、35h (1 単位)
- ・**多忙化で、教師が生徒に関わる時間が不足**

(工業)

- ・約 75 % が就職 → ほぼ全員が内定、一次内定率が低下 (100 % → 85 %)
- 低下の原因 : 異世代とのコミュニケーション不足、他県の生徒との競合
- ・ 5 S・AF (整理・整頓・清掃・清潔・躰、挨拶・服装) の推進
- ・化学系の求人が減少傾向
- ・高度熟練者による指導 → 技能検定の取得
- ・インターンシップ : 20 社・50 名
- ・**専門教育の内容や魅力が小中学生に十分には伝わっていない**

(商業)

- ・社会人基礎力の育成、起業家精神の育成、地域産業を担う人材の育成
- ・人間性豊かな人材の育成
- ・地域と共に歩む商業高校
- ・就職希望者 43 名の内、地元就職者 6 名 → 本来は全員が地元就職を希望  
未内定者 1 名 (医療事務職を希望)

- ・進学：大学 23 %、短大 8 %、専門学校 42 %  
4 年制大学への進学希望者が増加傾向
- ・インターシップ 4 日間 → 効果の検証中（小中高系統だったシステムの構築が必要）
- ・普通科志向の増加 → 専門性をいつ身に付けるのか
- ・資格取得に力点 → 企業の評価は低いが、生徒には様々な力が付いている

(家庭)

- ・就職者 80 %
- ・地域で学び、地域（小中学校、大学、地域産業界）に貢献
- ・社会人講師 77 講座実施
- ・2 年生は全員企業訪問又は大学訪問を実施
- ・部活動、資格取得に熱心だが、時間の扱いが課題
- ・より適切なアドバイスが出来るよう、生徒一人一人の検討会を開いて声かけ

(看護)

- ・5 年一貫教育
- ・専攻科の生徒は意識が高い
- ・看護師不足で、就職状況は極めて良い
- ・就職は国家試験合格が必須条件
- ・生徒間の学力差が大きい
- ・言葉遣い、マナー指導が課題

(総合)

- ・工業・福祉・普通科系列を設置
- ・就職未内定者 5 名（男 1・女 4）
- ・ゼロトレランスの理念を取り入れた生徒指導を実施して 3 年目
- ・学力向上が課題
- ・インターシップは 2 年生の就職希望者を対象に実施
- ・新たな取組の必要性を実感 → 現状を分析する力の育成

(副委員長からの助言)

① 在学中に身に付けてほしい力

企業の要求は、高校生も大学生も同じ

→ 学習指導要領改訂の度に低くなる、日本社会全体の問題

② 教員の指導力向上が必要

③ 専門高校でどうスペシャリストを育成するか

専門高校生を企業が採用する意義の明確化

## II 専門性を高校段階で身に付ける意義

- ・職業に就くための知識・技術の習得
- ・勤労観・職業観の育成
- ・指導を素直に受け入れる年代
- ・純粋な思い（目的意識）や関心・意欲を持って高校へ入学してくる
- ・対人能力は（普通科高校生と比較して）専門高校生の方が高い  
ものづくりや実験・実習などの体験を通じて人材育成 → 人間性や豊かな感性
- ・中学生の希望者が多い（ニーズがある）

## III 課題のまとめ

- ①学力向上
- ②教員の指導力向上
- ③基本的な生活習慣の育成
- ④広報の必要性
- ⑤資格取得の意義を明確にする
- ⑥個に応じた進路指導の推進

## IV 今後必要と思われること（自由討議）

- ①教員研修 → 企業で1・2週間  
教員がインターンシップで企業を知る → 自信を持って教育が出来る
- ②進路部会等で教員が情報を共有することが必要
- ③規範意識や社会人としてのマナーを授業等で育成する
- ④専門高校の良さを小中学生にアピールする方法  
→ 5年研・10年研で小中学校の教員に見学してもらうことは出来ないか
- ⑤家庭学習の習慣化
- ⑥アルバイトで育成できることもある



## 「将来のスペシャリストの育成」に関する提言

### 1 「スペシャリストへの道」(抜粋)

職業教育の活性化方策に関する調査研究会議(最終報告) (平成7年3月)

#### 1 職業教育を充実させるために

##### (1) 21世紀の職業教育を目指して

###### ① スペシャリストが求められる時代

近年、技術革新、国際化、情報化、少子化、高齢化等により、わが国の社会大きく変化してきており、それに伴い就業構造の変化や必要とされる専門能力の高度化が進み、高度の専門的な知識・技術を有する人材(スペシャリスト)がこれまで以上に必要とされるようになってきている。

##### (2) 「職業高校」から「専門高校」へ

###### ① 「職業高校」から「専門高校」へ

職業教育は職業高校の生徒だけではなく、すべての人にとって職業生活を送る上で必要なものであり、また、今日の急速な社会の変化に対応するためには、学校教育終了後も生涯にわたり職業能力の向上に努める必要がある。

また、これからの時代、自分の人生を切り開いていくためには、専門能力を身に付け、これをいかに活用することができるかがより重要になってくると考えられる。

このことから、職業高校における職業教育も、現実の産業界から求められる知識・技術の水準を視野に入れながら、スペシャリストとなるための第1段階として、必要とされる専門性の基礎的・基本的な教育に重点を置く必要が高まっている。

したがって、従来の「職業高校」という呼称を、「専門高校」に改めることにより、このような考え方を明確にする必要がある。

###### ② 専門高校における職業教育

専門高校における職業教育は、これまで有為な職業人の育成などの面で重要な役割を果たしてきており、特に中堅技術者、事務従事者などの養成を中心に我が国の産業経済の発展に大きく寄与している。また、専門高校における職業教育は、その特性から、生徒の能力・適性等に応じつつ、人間教育的観点からも有効な役割を果たしてきている。

他方、技術革新の進展や職種の多様化等に伴い、スペシャリストとして求められる知識・技術の高度化・多様化が進展しているため生涯を通して専門能力の向上に努める必要が一層高まっている。

このため、専門高校においては、社会の変化や産業界から求められる知識・技術の水準を視野に入れながら、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎的・基本的な教育に重点を置く必要があると同時に、そこで学ぶ生徒は、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる能力を身に付けて、卒業後も職業生活に必要な知識・技術に関する学習を継続していく必要がある。

さらに、専門高校卒業後、高等学校専攻科や、大学、短期大学、専修学校といった教育機関での学習を希望する生徒に対して、その専門的知識・技術を発展させるため、広く学習継続の道を開くことが重要である。

## 2 「今後の専門高校における教育の在り方等について」（抜粋）

理科教育及び産業教育審議会（答申）〈平成10年7月〉

### I 専門高校の現状と課題

#### （専門高校の果たす役割と意義）

—（略）—

近年、技術革新、国際化、情報化、少子高齢化等により、我が国の社会は大きく変化してきており、それに伴い就業構造の変化や職業生活において必要とされる専門能力の高度化が進んでいる。また、例えば製造業現場において、機械中心から人中心の製造方式への転換が行われるなど、個人の創造性が重視され始めている。さらに、国民の意識や価値観も、心の豊かさの重視、多様性・選択の自由の拡大などの方向へ変わりつつある。

このような状況を踏まえると、今後の社会においては、自ら考え、判断し行動できる資質や能力を持つとともに、高度の専門的な知識や技術・技能を有する人材（スペシャリスト）がこれまで以上に必要とされると思われる。

したがって、今後の専門高校は、このようなスペシャリストの基礎を培うという役割を担うことが期待される。また、これまでも重視されてきた実験・実習などによる体験的・実践的学習は、生徒の学習意欲の喚起や問題解決能力の育成等に資するものであり、今後も引き続き専門高校における学習の中心を成すべきものである。

—（略）—

#### （生涯学習の視点を踏まえた教育の在り方）

第一は、産業構造・就業構造の変化、科学技術の高度化等が進む中で、生涯学習の視点を踏まえた教育の在り方を考えていく必要があるということである。

これまで、専門高校における教育は職業生活において必要とされる専門的知識や技術・技能を身に付けた職業人を育成するための教育、完成教育としての職業教育という側面が強調されてきた。その背景には、専門高校は職業教育をしっかりと行う場であるという意識が、関係者を含め広くあったものと思われる。しかし、近年の科学技術の進展

等に伴い、産業界において必要とされる専門的知識や技術・技能は高度化するとともに、従来の産業分類を超えた複合的な産業が発展してきている。加えて、就社から就業へといった職業観の変化等も進んでおり、これまでの卒業後すぐに特定分野の産業に従事することを前提にした教育課程では、社会のニーズや生徒の希望に十分に対応できなくなっている。

実際、生徒の卒業後の進路を見ると、昭和 60 年度においては専門高校卒業後すぐに就職する者の割合は約 8 割であったが、平成 8 年度には約 6 割に減少している。一方で、大学や専門学校等に進学する者の割合は、同時期に約 2 割から約 3 割 5 分へと増加している。

こうした状況を踏まえると、専門高校における教育内容の検討に当たっては、生徒が高等学校卒業後においても大学等の教育機関や職場等において継続して専門能力を向上させるための機会を必要としていることを考慮しなければならない。

すなわち、生涯にわたって学習する意欲と態度を育成するとともに基礎となる知識や技術・技能、学び方などを確実に身に付けさせることを重視した教育の在り方を検討する必要がある。

## II 専門高校における教育の改善・充実のための視点

我々は、以上のような点を専門高校における課題と考え、これらに適切に対応していくための方策を種々検討した結果、専門高校の教育の在り方に関し、次のような視点から改善・充実を図っていくことが必要であると考えた。

### 1 専門性の基礎・基本の重視

第一の課題にこたえるためには、今後の専門高校においても、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎・基本をしっかりと身に付けさせることに教育の重点を置くことが重要である。

社会や産業界が求める、時代にあった、あるいは高度な専門的知識や技術に柔軟に対応し得る資質や能力のある人材の育成は、高等学校教育のみにおいて完成されるものではなく、卒業後においても大学等の教育機関や職場等において継続して教育を受けるなど、生涯にわたる専門能力の向上を通して実現されるものである。

したがって、専門高校においては、これを前提にして専門性の基礎・基本に重点を置き、教育内容の厳選を図る必要がある。

## 平成22年3月新規学校卒業者の就職内定状況について

来春の中学校・高等学校・大学等（大学、短大、高等専門学校、専修学校）卒業予定者の平成22年1月末日現在における就職内定状況等を取りまとめましたので、お知らせします。

### ○ 中学校

- ① 求人数は5人で、前年同期に比べ83.3%減少。
- ② 就職希望者は28人で、前年同期に比べ33.3%減少。
- ③ 求人倍率は0.18倍で、前年同期を0.53ポイント下回る。
- ④ 就職内定者は3人（前年同期は2人）、就職内定率10.7%で前年同期を5.9ポイント上回る。

### ○ 高等学校

- ① 求人数は3,345人で、前年同期に比べ39.8%減少。
- ② 就職希望者数は3,299人で、前年同期に比べ17.4%減少。
- ③ 求人倍率は1.01倍で、前年同期を0.38ポイント下回る。
- ④ 就職内定者数は2,742人（前年同期比24.6%減）、就職内定率は83.1%で、前年同期を8.0ポイント下回る。  
就職内定率を男女別で見ると、  
男子は88.0%で、前年同期を6.6ポイント下回る。  
女子は75.5%で、前年同期を9.9ポイント下回る。

### ○ 大学等

- ① 就職希望者数は8,370人で、前年同期に比べ9.7%減少。
- ② 大学の就職内定率は68.6%で、前年同期を7.2ポイント下回る。  
男女別で見ると、  
男子は65.4%で、前年同期を13.5ポイント下回る。  
女子は71.4%で、前年同期を1.7ポイント下回る。
- ③ 短期大学の就職内定率（女子のみ）は73.1%で、前年同期を1.8ポイント下回る。
- ④ 高等専門学校の就職内定率（男子のみ）は95.5%で、前年同期を3.4ポイント下回る。
- ⑤ 専修学校の就職内定率は62.7%で、前年同期を4.8ポイント下回る。

### ○ 就職未内定者に対する就職支援等

昨年12月8日に政府がとりまとめを行った「緊急経済対策」（「明日への安心と成長のための緊急経済対策」）に基づき、県下すべてのハローワーク内に未内定となっている高校生の就職支援のための「緊急学卒支援窓口」を早急に設置し、各高校との連絡体制の迅速化及び緊密化を図り、高校と連携の下必要な支援を実施している。併せて、ハローワークに配置した求人開拓推進員やジョブサポーター等によるさらなる求人開拓や職業相談等の就職支援を実施している。  
また、今後は、未内定学生等の状況に応じて、未就職卒業者に対する新卒者体験雇用事業や職業訓練の活用等による支援も実施することとしている。

- 1 就職希望者数は、「学校」又は「公共職業安定所」の紹介を希望する生徒の状況を取りまとめたものです。
- 2 平成22年3月新規中学校卒業予定者の選考・内定開始期日は、文部科学・厚生労働両省により、平成22年1月1日以降と定められています。

## 平成22年3月新規学校卒業予定者の就職内定状況

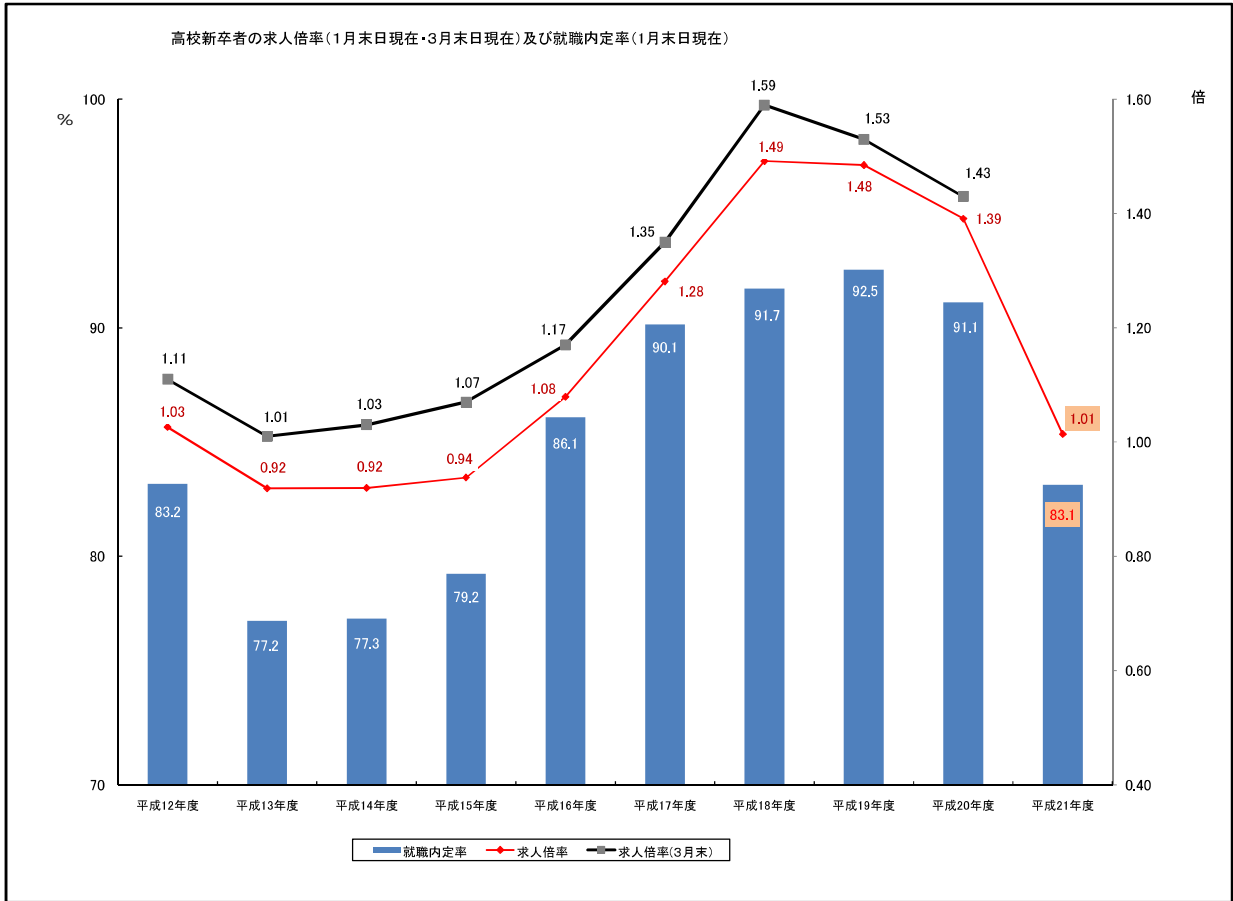
平成22年1月末日現在

岡山労働局(単位:人、%)

項 目	平成21年度			平成20年度			対前年増減比			
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
中 学	卒業予定者数	18,145	9,384	8,761	18,512	9,518	8,994	-2.0	-1.4	-2.6
	就職希望者数	28	15	13	42	20	22	-33.3	-25.0	-40.9
	就職内定者数	3	3	0	2	1	1	50.0	200.0	-100.0
	未内定者数	25	12	13	40	19	21	-37.5	-36.8	-38.1
	求人数	5	-	-	30	-	-	-83.3	-	-
	求人倍率	0.18	-	-	0.71	-	-	-0.53	-	-
就職内定率	10.7	20.0	0.0	4.8	5.0	4.5	5.9	15.0	-4.5	
高 校	卒業予定者数	17,457	8,958	8,499	18,155	9,050	9,105	-3.8	-1.0	-6.7
	就職希望者数	3,299	2,012	1,287	3,992	2,468	1,524	-17.4	-18.5	-15.6
	就職内定者数	2,742	1,770	972	3,637	2,335	1,302	-24.6	-24.2	-25.3
	未内定者数	557	242	315	355	133	222	56.9	82.0	41.9
	求人数	3,345	-	-	5,554	-	-	-39.8	-	-
	求人倍率	1.01	-	-	1.39	-	-	-0.38	-	-
就職内定率	83.1	88.0	75.5	91.1	94.6	85.4	-8.0	-6.6	-9.9	
専 修 校	卒業予定者数	2,501	1,050	1,451	2,832	1,222	1,610	-11.7	-14.1	-9.9
	就職希望者数	2,137	868	1,269	2,458	1,035	1,423	-13.1	-16.1	-10.8
	就職内定者数	1,339	527	812	1,660	729	931	-19.3	-27.7	-12.8
	未内定者数	798	341	457	798	306	492	0.0	11.4	-7.1
	就職内定率	62.7	60.7	64.0	67.5	70.4	65.4	-4.8	-9.7	-1.4
高 専	卒業予定者数	175	162	13	165	154	11	6.1	5.2	18.2
	就職希望者数	95	89	6	101	92	9	-5.9	-3.3	-33.3
	就職内定者数	91	85	6	100	91	9	-9.0	-6.6	-33.3
	未内定者数	4	4	0	1	1	0	300.0	300.0	0.0
	就職内定率	95.8	95.5	100.0	99.0	98.9	100.0	-3.2	-3.4	0.0
短 大	卒業予定者数	1,925	222	1,703	2,033	174	1,859	-5.3	27.6	-8.4
	就職希望者数	1,311	120	1,191	1,449	100	1,349	-9.5	20.0	-11.7
	就職内定者数	928	57	871	1,079	69	1,010	-14.0	-17.4	-13.8
	未内定者数	383	63	320	370	31	339	3.5	103.2	-5.6
	就職内定率	70.8	47.5	73.1	74.5	69.0	74.9	-3.7	-21.5	-1.8
大 学	卒業予定者数	8,066	4,122	3,944	8,467	4,379	4,088	-4.7	-5.9	-3.5
	就職希望者数	4,827	2,297	2,530	5,258	2,440	2,818	-8.2	-5.9	-10.2
	就職内定者数	3,310	1,503	1,807	3,984	1,925	2,059	-16.9	-21.9	-12.2
	未内定者数	1,517	794	723	1,274	515	759	19.1	54.2	-4.7
	就職内定率	68.6	65.4	71.4	75.8	78.9	73.1	-7.2	-13.5	-1.7
大 学 等 計	卒業予定者数	12,667	5,556	7,111	13,497	5,929	7,568	-6.1	-6.3	-6.0
	就職希望者数	8,370	3,374	4,996	9,266	3,667	5,599	-9.7	-8.0	-10.8
	就職内定者数	5,668	2,172	3,496	6,823	2,814	4,009	-16.9	-22.8	-12.8
	未内定者数	2,702	1,202	1,500	2,443	853	1,590	10.6	40.9	-5.7
	就職内定率	67.7	64.4	70.0	73.6	76.7	71.6	-5.9	-12.3	-1.6

- 注) 1 中学・高校の卒業予定者は5月15日現在である。  
 2 就職希望者・就職内定者・未内定者のうち、大学等については公務員・自営業は含まない。  
 3 中学・高校については縁故・公務員・自営業への就職者は含まない。(学校・安定所扱いの数のみ)  
 4 求人数については、県下の各公共職業安定所に提出された求人の受理状況である。





(%)

